

「立野ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時： 平成24年9月24日（月） 18:30～20:30

場 所： 南阿蘇村 南阿蘇村役場久木野庁舎（集会ホール）

発表者： 意見発表者

○住民（1番）

●●といます。素案に対する意見を述べたいと思います。

1つ目は素案に対する意見を述べるということですが期間が非常に短かったです。私が知ったのは20日の日です。だから20日の日に友人からメールで報告書を頂いて3分の1ぐらいしか読んでいないです。こういうやり方は今後改めて頂きたいというのが第1です。河川事業というのは住民の意見を十分に聞かなければならないものですから、私が思うのは少し余裕をもってやる必要があるのではないかと思います。住民参加の精神を貫く必要があるのではないかと思います。

2つ目の意見としては、7月12日の豪雨災害についてですけれども、特に熊本市の白川が各地で氾濫をしました。私も熊本に長く住んでおりましたので白川の河川改修が遅れていたのは十分承知しておりましたけれども今回の7.12の洪水というのは、浸水被害を受けたところはほとんど未改修のところであった訳です。県の区間や直轄区間も含めて。そういうことで河川改修をやっていないというところに大きな問題があったのではないかと思います。だから素案では現行の計画を容認しておりますけど、ダムより早く河川改修を優先させる。このことが求められているのではないのでしょうか。報告がありましたようにダムを作るのに10年かかる、それまでの間、白川の河川改修はやらないのかという問題が出てくると思いますので、やはり河川改修をきちんとやるというのが重要ではないかと思います。

3つ目に、立野ダムは阿蘇の玄関口である。若いときから南郷谷によく行っていました。11年前に来てみてびっくりしたが、立野溪谷を含めて阿蘇くじゅう国立公園であり、そのうちの36ヘクタールという膨大な自然が水没するということになる訳です。以前は戸下温泉というところがあって、そこに行くと、非常に緑豊かで、北向山の自然林は非常にほっとするところであった訳です。それが水没する訳です。立野ダムの事業区域は阿蘇くじゅう国立公園の特別保護区に指定されている訳です。素案では、文化庁や環境省と協議をすとなっておりまして、文化財保護法や国立公園法に照らし合わせても明らかに問題があるのではないかと思います。国が決めた法律を破るということはまかりならないと思います。そういう意味では今度のダム建設は、そういう観点からも私はダムに頼らない河川改修を重視すべきだと思います。

素案では、ダムを構築するには十分な強度と岩盤特性を有していると書いてあります。しかし、皆さん、立野ダムの予定地を見てもらえれば、非常に多くの溶岩の割れ目があります。この割れ目から漏水することは明らかであるし、崩壊することは明らかであります。そういう意味では、いつも崩れ落ちているという状態の中で立野ダムを作るということが

本当にいいのか。もしも出来上がって、今度のような大雨が降った場合には土砂や流木がダムに詰まって崩壊する危険性が非常にあると思います。そうなってきますと、大津から菊陽から熊本市に至る河川が大洪水を起こすということは目に見えて明らかではないでしょうか。ダムを作る下には布田川・日奈久断層帯というものがあります。この断層帯は非常に活発に動くと言われております。ダムの真下に断層帯があるというのは大きな危険性があるのではということをはっきりと明らかにするべきであります。非常に危険な所に作るということになります。

素案によると、ダム仮排水路トンネルの工事に着手されていないにもかかわらず総事業費が917億円ということで膨大にふくれあがっていますが、川辺川ダムの建設費用が2倍にも3倍にもなったということは新聞でも報じられているわけです。果たしてこれだけで済むのか、おそらく1,000億円以上になるのではないかと。県が3割負担するということになるわけですが、県民の1人当たりで見ますと15,000円使うことになるわけですが、そのような費用を使っていいものかという問題もありますし、白川の改修を常にやっていくというのが大切ではないかというふうに思っております。

阿蘇は世界に誇る阿蘇カルデラではないでしょうか。ダムは必要ありません。ダムを作って栄えた村はありません。地域住民の意見を十分に聴いて、ダムに頼らない治水事業をやるのが非常に大切ではないでしょうかということを最後に述べて私の意見とさせていただきます

#### ○住民（2番）

●●といます。私も立野ダム建設反対の立場から意見を述べます。

立野ダムが費用対効果で有利とされていますが、費用の中にダムの撤去費用が含まれているのか疑問があります。コンクリートにも寿命があります。荒瀬ダムについても撤去となりました。撤去費用も含まない費用対効果の算出であれば有利といえないのではないかと思います。

立野ダムは穴あきダムといっても必ず白川の水質汚濁を招くと考えます。流域と有明海の農漁業と観光に多大な悪影響を及ぼします。川辺川ダムにかかわる収容委員会、事業認定取り消し訴訟を傍聴して、河川の流れをせき止めることによる環境への悪影響を知りました。たとえ少量でも流れを滞留させると、土砂だけでなく、流木等の有機物やヒ素など自然界にある重金属、無機物が混じり、年月を経て濃縮しヘドロ化すると専門家は指摘しました。立野ダムの穴は川底の一番低いところよりも高くなっております。常時滞留部分が生じます。確砂の質は集水域の地質、植生や河川毎に千差万別であり、流れの質を問題にしたいと思います。

球磨川の市房ダム、荒瀬ダムの上下流の住民は、当初、国・県の説明では「水害がなくなると言われた。」と言っています。しかし結果は逆でした。ダム建設以前よりも浸水被害に遭っておられます。市房ダム建設以前は膝下ぐらいまでしかなかったけど、建設後は2階の天井までくるような水位だったそうです。

最後に、今日の意見の発表にあたっての留意事項という紙を頂きましたが、その中に「頂いたご意見については個別にお答えすることは出来ません。」と書いてあります。このよ

うな問題では双方向性が大事だと思います。川辺川ダム問題を考える住民討論集会のような集会の開催を要望します。

終わります。

○住民（3番）

南阿蘇の●●と申します。

今の方がお尋ねになたように、お尋ねしたことに對してその場で回答をもらわないと何かなんだか解らないですね。私もこういう形で意見を述べると思っておらず何も資料を持っておりませんが、こちらから発言したことに対して聞いただけでは何も意味は無いと思います。それはそれで置いておいて、貯水量に関してまして、JRの線路はそのままの残るのでしょうか？そのくらいはお答えして頂けますよね。JRの鉄道より水面は下ですよ。私も小さい地図ではありますが、鉄道の所で線を引いてみたら水が溜まる所が21万m<sup>2</sup>しかない訳です。これだけの膨大な水は溜まるのかを今は返答はないでしょうけど一つお尋ねしたいと。それと、もともとロックフィルダムと聞いていたが、下だけがロックフィルダムなのですか。これも今は返事はないでしょうけど。この前の水害の時に流木が色々な所の橋に引っかかりました。その為に両側の川の蛇行しているところは全部田畑がやられています。土砂が溜まって。そのような状態の時に、一番下に放流口があるということですが、水が出ていくのでしょうか？少しずつ流すから意味があるのであって、オーバーしてしまったらダムで止めている意味はないです。ということをお尋ねしたいと思いません。

この前、私の友達が龍田で被害にあっておりますので、特にそのあたりはどの様になっているのをお尋ねしたいと思っております。貯水量が私の計算とは大幅に違います。これが何故そんなに違うのかということをお尋ねしたいです。桁が違います。

ということで私は終わります。

○住民（4番）

南阿蘇村の久石に在住しております●●と申します。よろしく申し上げます。

すでに様々なご意見がでて、それと重なるところがたくさんあります。

まず1点、今回の7.12洪水に関しましても地域の河川工事によって十分まかなえるというですね、大きく自然を壊すよりも少しずつ、技術・人間の知恵でもって改修していけば十分な効果が得られるという大きな選択肢があるにもかかわらず、何十年前に出た話、それを曲げることが出来ない行政の、官僚の典型的な発想でもって推し進めるというような、しかも今回は洪水に引き続きということで。あまり行政に関して言うと問題があるのでやめておきます。

阿蘇の立場で発言させていただきます。まず国立公園でもあり、そして現在日本ジオパークに認定され、現在世界ジオパークを目指して地域でもってがんばっております。地域の住民の皆さん、そして地域の有識者が一丸となって、地域の行政も含めて一丸となって、地域の自然・人の営みというものを誇れるよう現在努力しております。それに対して、このような事業というのは非常に水を差すようなことでもあります。しかもこのような工事が進んでしまえば、さらにその先にある目標、世界遺産登録、その夢は全く途絶えてしま

うことは確実です。ですので、ただ単に数字のうで一応費用対効果というのはでていますが、その中に入っていない数字、阿蘇というのは世界中から観光で人が集まっている。そういう隠れた数字で表れない価値というものも見直すべきであると思います。

それからもう一点は、地質・地形的なことでもあります。私自身、地質学を研究しております。こちらのいろんな調査結果が出ておりますが、まず一点、左岸側は断層系がございます。断層系という「系」がつくというのはつまり1本ではないということです。断層というのは非常に複雑な構造をしておりまして、一本筋が地質上、非常に縮尺の大きい地質図上で一本線を引いて、そこに一本あるだけではなく、様々な枝の断層もございます。それから破碎帯もございます。しかも断層というのは200m、300mちょっと離れただけで、ただの亀裂から破碎帯、非常にめまぐるしく変わります。ですのでそういったことに対応した調査をしているのかどうか、それははなはだ疑問に感じます。具体的な調査結果を公開していないのでそれを見ることは出来ませんが、それに関しては非常に疑問に感じます。また右岸側は、さきほども話があったように立野溶岩という非常に柱状節理が発達したものがございます。土木工学的な計算をして大丈夫だという話かもしれませんが。しかしながら、溶岩というのは地層のように1枚でどこまでも続くものではありません。しかも立野というのはカルデラの切れ目であって、過去に洪水が起きて谷が出来て、その中を溶岩が埋めたという非常に複雑な履歴を持っていますので、どこに何があるかということに関しては、精密な調査をしないとわかりません。しかも、溶岩と溶岩の間、溶岩と基盤の間は、不連続面であり力学的に脆弱になりますので、そうしたことも含めて果たして調査しているのかということ是非常に疑問に思います。ただ単に表面的に言い訳ができるような問題だけを取り上げて、それがクリアできれば全てOKというような発想をしているのではないかということに非常に危惧を感じています。

また、先ほどの話にもありますように、穴あきダムではありますけれど、先日の大雨でもかなり動きましたけど、巨石や流木がすぐに詰まってしまってダムが満杯になってしまうことは容易に推測されます。その上力学的に果たして耐えるかどうか、周辺の岩盤も含めて。もし決壊が起これば、それこそ、健磐龍命（タケイワタツノミコト）が外輪山を蹴破った、そこまでの規模ではありませんけれども、おそらく過去に溶岩が立野を埋めてダムができ、それが決壊し、その結果、熊本市の地層というのは非常に大きな家ほどのある、一抱えのある岩石が熊本市の足下にはたくさん転がっています。そういった場所であるということを認識した上での再調査して頂きたい。報告書を見ますと他の河川と平均してとか、他の河川の状況を分析してというような書き方がされていますけれども、立野というのは非常に特殊な場所であるということ踏まえた上でゼロから出発して、どうしたら調査をしたらよいかということをよく考えて調査して頂きたい。その上で本当に大丈夫であれば、そのデータをもって我々に報告して頂ければ、聞く耳は持つという言い方は変ですけど、聞きたいのですけれども、今の状況ですととても今の雰囲気のように良いデータだけを並べて説得されているというようなものは拭えないと思います。

よろしく申し上げます。